日本農芸化学会創立80周年記念
中四国支部若手研究者交流会

アレルギー問題に挑む若手研究者
in 農芸化学会中四国支部

日　時 ： 平成16年11月27日（土）13:00～17:00
会　場 ： 広島大学先端科学総合研究棟（先端研）401N講義室
会　費 ： 無　料

演　題 ：「抗原特異的ペプチド減感作療法」
広島大学大学院生物圏科学研究科　田辺創一

「緑茶成分を利用した抗アレルギー食品開発をめざして」
九州大学大学院農学研究院　立花宏文

「生体のIgE抗体産生に影響を及ぼす外因性物質：
水酸化アルミニウムアジュバントに関する疑問から」
徳島大学医学部　山西倫太郎

「多糖修飾による抗原抗体反応阻害とそのメカニズム」
独立行政法人水産大学校食品化学科　臼井将勝

「アトピーの発症機構を探る–動物病態モデルからのレッスン」
広島大学大学院先端物質科学研究科　河本正次

世話人・連絡先 ： 秋　庸裕（広島大学大学院先端物質科学研究科）
Tel. 082-424-7755, Fax. 082-424-7754
E-mail: aki@hiroshima-u.ac.jp

支部ホームページ ： http://home.hiroshima-u.ac.jp/jsbbacs/

若手研究者交流会報告書

アレルギー問題に挑む若手研究者 in 農芸化学会中四国支部
2004 年 11 月 27 日（土）13:00〜17:00
広島大学先端科学総合研究棟 401N 講義室

本交流会は，日本農芸化学会中四国支部の企画として採択され，日本農芸化学会創立 80 周年記念事業の一環として開催された。アレルギー及び免疫制御をキーワードとして中四国支部内の 4 名及び西日本支部の 1 名の講演者によるホットな話題が提供され，活発な議論が交わされた。聴衆は，演者が所属する広島大学や山口大学の教員，院生，学部生のみならず，広島国際学院大学，研究成果活用プラザ広島，広島県立食品工業技術センター，勝谷クリニック，坪井内科病院，西川ゴム工業株式会社，フマキラー株式会社，さらに県外からも，岡山県立大学，ヒガシマル醤油株式会社から参加していただき，合計 58 名に達した。学会誌，ホームページへの記載とともに，1 ヶ月前に支部内各所（支部評議員の所属機関を中心に）に広告を郵送した効果が多少はあったものと思われる。

最初の田辺創一先生の演題「抗原特異的ペプチド減感作療法」では，本交流会の共通概念となるアレルギー発症機構やアレルゲンの構造についての概説と，食物アレルゲンで特定されたエピトープ構造を基盤とする減感作療法についての実例が紹介された。続いて，立花宏文先生からは「緑茶成分を利用した抗アレルギー食品開発をめざして」と題して，最近ブームとなっている緑茶カテキンの新たなレセプターの発見など免疫系への作用機構について，興味深い知見が紹介された。山西倫太郎先生の演題「生体のIgE抗体産生に影響を及ぼす外因性物質：水酸化アルミニウムアジュバントに関する疑問から」では，アジュバンドとして用いられるアラムのIgE産生に及ぼす効果に関する研究から，生体酸化との関係についての重要な問題提起をいただいた。臼井将勝先生からは「多糖修飾による抗原抗体反応阻害とそのメカニズム」と題して，スギ花粉・大豆アレルゲンの多糖修飾による活性抑制についての実例とメカニズム解明に関する詳細な検討結果が紹介された。最後に，河本正次先生の演題「アトピーの発症機構を探る－動物病態モデルからのレッスン」では，アトピー性皮膚炎や喘息の発症における外的因子や好酸球などの関与について，ノックアウトマウス

を用いた先端研究成果と今後の課題が述べられた。以上の講演を踏まえて，田辺先生から，アレルギー問題解決へのアプローチに関する総括をいただき，演者からのコメントを交えて結論した。

当初は中四国支部近辺でアレルギー関連の若手研究者を集めるだけでも意義があると思っていたが，世話人及び演者間の事後感想としては，アレルギー問題の重要な部分は一通り網羅されつつ，レベルも高く，人的交流も含めて極めて有意義な交流会であったということである。また，懇親会では次回開催を望む声もあり，発展を期待したい。

最後に，中四国支部役員・評議員の先生方ならびに交流会に参加いただきました方々に深く御礼申し上げます。

2004年11月29日

世話人　広島大学大学院先端物質科学研究科　秋　庸裕

田辺先生

立花先生

山西先生

臼井先生

河本先生

聴衆